

次世代を担う若手が語る現在 ～未来～

10年後の建築設備への 展望・希望

2020年に設立30周年を迎えた建築設備技術者協会中部支部では、記念事業の一環として、次世代を担う若手による座談会を2021年6月10日に開催し、『10年後の建築設備への展望・希望』を主題に、SDGs、カーボンニュートラル、DX、ワークライフバランスへの取り組みについて意見交換しました。また、座談会は新型コロナウイルスによる緊急事態宣言を鑑みリモート開催としました。

- 青木 一晃氏 (株)日建設計
- 有馬 進太郎氏 藤原工業(株)
- 岡田 陽介氏 (株)大林組
- 神谷 啓介氏 (株)トーエネック
- 河田 奈々氏 中部電力ミライズ(株)
- 林 未南美氏 (株)建築設備計画
- 溝口 薫子氏 高砂熱学工業(株)
- 山口 諒氏 東邦ガス(株)

- | |
|-------------|
| 支 部 長 村上 正継 |
| 副支部長 閑林 憲之 |
| 副支部長 黒田 慎二 |
| 事業理事 中島 勝美 |
| [WEBスタッフ] |
| 総務理事 伊藤 嘉文 |
| 事業理事 野瀬 久和 |
| 広報理事 岩田 正道 |
| 事業理事 久米 守 |

村上 建築設備技術者協会中部支部長の村上です。本日は次世代を担う皆さんの活動状況、ご意見、10年後の建築設備への思いを存分に語ってください。

中島 最初に業務内容など、自己紹介をお願いします。

河田 総合エネルギー企業への入社5年目です。入社当初は岐阜で主に工場のお客様へ省エネや省コスト提案等のコンサルティング業務を行い、今は各地域営業部のサポート業務を行っています。昨年は設備系サブコンへの出向で現場を見る機会を得、知識を広げました。

林 設計事務所で機械設備を担当しています。小さな会社なので、決まったジャンルではなく色々な建物を設計しています。

溝口 空調設備工事会社への入社14年目です。ずっと名

古屋支店勤務で、技術部門の施工管理を3年経験後に設計業務に就き、新築・改修、省エネ提案等幅広く手掛けています。2回目の産休・育休から昨年の緊急事態宣言時にテレワークで復職し、時短勤務中です。

青木 総合設計事務所で電気設備の設計を担当しています。入社7年目で、これまでに携わった案件は庁舎、金融機関や保育所など。地域性もありますが、同期の中でも比較的多数の、大小の幅広い物件を経験しております。

有馬 建築機械設備工事の会社で施工管理を行っています。経済学部卒で技術職として入社して10年目。老人福祉施設や病院施設、保育園など多岐に渡る案件を担当し、作業員、技術者含め色々な知識の集大成で建築物を完成させる仕事にやりがいを感じています。

山口 ガス会社への入社10年目です。都市エネルギー営

業部に在籍し、技術支援チーム、物販やスポーツクラブなど、直接ガスを利用するユーザーへの営業を経て、現在は建築事務所などを担当しており、エネルギーシステムの提案をメインに行っています。

神谷 電力会社系総合設備企業への入社14年目です。配電業務で電柱設備の新築・改修・撤去等、市場開発業務で一般のお客様を中心としたオール電化の提案・設計施工を経験後、設計業務に就いています。主に電気設備について、ゼネコンの設計協力等を行っています。

岡田 ゼネコン入社12年目です。設計・施工・見積りの部門をローテーションし、2年前に名古屋の設備設計へ配属となり、空調衛生設備の設計を担当しています。東京、大阪、広島、四国、名古屋の5拠点を経験しており、各地の特性も理解しているつもりです。

中島 2030年の達成を目指すSDGs(持続可能な開発目標)に関して取り組んでいること、それに対する課題等をお話し下さい。

青木 電気設備の設計で、提案項目がSDGsのどのゴールに対応するかを示しながら提案しています。例えばサーカディアン照明は、健康と福祉、エネルギー・クリーン、持続的な経済活動に対応するとして提案しました。省エネへの寄与だけでなく、体内リズムを正常化させることでのウェルネス効果、さらに知的生産性向上からの経済効果をつなげています。

有馬 弊社では17のゴールのうち6、8、9、11に主に取り組み、例えば目標8の「働き甲斐も経済成長も」ではメンター制度を導入。わたしもメンターとして新入社員の教育を行っています。これは、技術者としてのレベルアップ等、早期戦力になるような教育と合わせ、建設現場の中で成長するために必要な能力を身につけるものだと考えています。効果の上がった例などについて意見を交わしています。これにより質の高い仕事ができれば、働き甲斐も個人の能力も向上し、生産性向上につながると考えます。

神谷 会社全体でのコンプライアンス推進、環境への配慮として節水・省エネの実施、定期的な募金活動、個々で食事の食べ残し等は絶対しないよう心掛けること等、4つの取組みを行っています。個人から始めて次は自治体、その次は国といった意識改革やメディアの発信により全ての人に周知する等の必要があると思います。最終的には国レベルで途上国の発展、医療機関等の支援をしていくのが課題です。

河田 私は、オンライン決済や銀行のECO通帳などを利便性だけでなく資源を守る観点でも活用しています。ただ、全く現金を持たないなど偏り過ぎるのは、震災時等を見据えるとどうなのかも考えます。また、不用品処分の際、フリマアプリを利用して捨てるのではなく品物が再利用されるよう心掛けています。

溝口 自家用車はハイブリッド、買い物はエコバッグを持参、育休や時短勤務を活用し、住んでいる夫の実家とれたお米や季節の野菜を食べています。業務では建築設備の省エネ提案を積極的に行っており、それに対してはコスト以外の価値創出が課題だと思っています。本社のESG推進室ではESG・SDGsについて情報を発信していますが、私がよく理解できておらず、今回を機にもっと自分ごととして考え、SDGs達成に向けた理想の未来を描く必要を感じました。

中島 2050年を目標とするカーボンニュートラルの達成に対し、業務上で取り組んでいること、対する課題があればお聞かせください。

青木 高効率な照明器具、人感センサー等の制御機器、太陽光発電等を組み合わせ、ZEBの提案を行っています。最近社内でも研修や講習会が増え、カーボンオフセットの講習会等に積極的に参加しています。ZEBにおける電気設備の幅をもっと広げ、太陽光以外の省エネを提案できるよう知見を広げたいと考えています。

有馬 メインは空調設備ですが、リニューアル等の際、施主や建築会社から言われたままではなく、既設設備を調査し最適化を考え、計画や提案をしています。



『ビッグデータで新展開も』▶河田

『壁はイニシャルコスト』▶林

『ZEBをスタンダードへ』▶青木

『柔軟な働き方もっと進んで』▶溝口



しかし、基本的に省エネ機器はイニシャルコストが高く、価格面で納得していただけない場合があり、価格以上の価値をどうアピールするかが課題ではと思います。

岡田 業務上の取り組みの一つは、省CO₂に配慮した技術を取り入れた設備設計の実施。展示会や商品説明会に積極的に参加し、新たな技術を学び、提案を行っています。もう一つは青木さんと同じ、ZEBの達成に向けた検討です。しかし国交省案件はZEBの要求水準が高い一方、民間のお客様はその優先度が低く、なかなか採用に至らないのが現状です。コンペ時の提案にwebプログラムを活用します。これは、コンペ要件に最低基準の数値があり、そこからいくつ下げるという提案が最も効果的だからですが、作業量が膨大で、時間効率の悪さも課題です。ZEBの認知度が高まりスタンダードになること、webプログラムが扱いやすいものになることを期待します。

河田 主に工場のお客様へエネルギー使用量の削減や太陽光発電の自家消費サービスなどを提案しています。お客様は親会社から数値目標を課され、その成果にこだわった提案がより求められていると肌で感じます。ただ、よく耳にするのが「認識はあるが、日々の業務に追われて省エネといった所まで手が回らない」という声。最近はコロナの影響もあり、省エネ寄りの設備投資の優先度が落ちている現状もあります。

中島 おっしゃる通りです。ただ、今後はもう少し環境

がクローズアップされていくのではと思います。

林 機械設備に高効率機器やコージェネレーション機器の採用を推進しています。また、空調関係で自然エネルギーの採用を提案しております。課題は皆さんがおっしゃるようにイニシャルコストが過大となり、実際に採用される段階で予算が合わないことが多く、実現されるのが難しいこと。各種ある補助金等の知識を得て、併せて提案していけたらと思っております。ZEBに関して会社全体で知識を増やすのも課題の一つです。

山口 一足飛びに脱炭素の実現は難しいと思うので、まずは徹底した低炭素を実現出来るように、CO₂排出の少ない都市ガスや、コージェネレーションなどの高効率機器を含めたエネルギーシステムの提案を行っています。さらに脱炭素への投資が積極的なアーリーアダプターには、CO₂フリー電気、カーボンニュートラル都市ガスといったカーボンニュートラルエネルギーや高密度蓄熱材などの新商材の提案を行っています。課題は技術的な部分が多いです。現在、供給可能な電気や都市ガスのカーボンニュートラルエネルギーの量は限度があり、大量かつ安価に生産するためのメタネーションやCCUSなどの技術開発が喫緊の課題です。また、脱炭素、低炭素の



山口 諒

実現には投資が必要。その促進には供給者・利用者が使いやすい補助事業の充実が重要です。

.....

黒田 わたしからはDX(IoT)への対応についてお聞きします。デジタル技術を活用し、ビジネス環境をよりよいものとする取り組みが求められています。現在の取り組み、それらの課題をお聞かせください。

.....

青木 ワークプレイスの有効利用と室内環境の最適化を目指す、クラウドプラットフォームを活用したセンサー・設備制御ネットワークシステムの実証に社内で行っています。省エネセンサー、環境センサー、位置センサーなど、複数のセンサーから情報を取り込み、照明・空調・セキュリティに相互に関係性を持たせ、最適な制御ができることを目的とするもので、その提案を最近始めています。また、業務上の観点では、リモートワークが増える中、クラウド上で各設計者が同じ図面を共有して編集作業するという取り組みを本格化しています。

河田 そのネットワークシステムについてももう少し教えていただけますか？ 弊社で最近、CO₂センサーを店舗等の各ブースに取り付け、室内環境を見える化するサービスを打ち出していこうとしていることもあり、気になりました。

青木 今まで、照明センサーやCO₂センサーといったものを単独で建物に組み込むことはありましたが、例えば照明センサーの情報を用いて他のもの、空調などを動かすことは容易ではありませんでした。それを可能にし、それぞれが相関して各機能を最適に制御できるようにしようとしています。

河田 システムにはどういった立場で携わっているのですか？ 発注者側なのか、構築側なのか。

青木 立場を言うなら、計画サイドですね。

河田 流れはどのようになるのでしょうか。

青木 私たちから「このようなシステムはどうですか」とお客様にご提案し、建物に合うシステムを考えます。それを設計図に組み込み、その設計図を基にお客様から施工者さんに発注していただくという流れがメインになると思います。

河田 よくわかりました。ありがとうございます。

岡田 会社としてBIMモデルの設計・施工・運用への一貫活用を目指しています。課題は新しいソフトを使う人材が少なく、外注さん頼りの運用になっていること。わたしもですが、最終的にお客様に渡したデー



河田 奈々

神谷 啓介

タがどう活用されるか、それによりどんなメリットがあるかまで十分把握できていないことです。

神谷 弊社も昨年度あたりからBIMに注視し、動き始めています。現状ではフルBIMの要望はなく、設計段階から部分的に活用し、早い段階で設計品質を高める建築と設備間での収まり検討や干渉等の早期解決等について、大手ゼネコンを中心に動いている印象です。対して、BIMを活用できる人材の育成と業務環境の整備が早急な課題。BIMに関わる標準仕様の確立、共通のオブジェクトやライブラリの構築等、整備が必要だと思っています。

河田 弊社は法人・個人の多様なお客様のビッグデータを持っているもののあまり有効活用できておらず、今回、業種やジャンル別で分析することで何か見えないかと考えました。例えばカーボンニュートラルと絡め、電力ピーク時の抑制で料金が安くするなど、多様なビジネスモデルの可能性ががあります。

溝口 最近、iphone・ipad・AirPods等の機器が全社員に貸与され、情報共有が大変便利になりました。現場のデータもクラウドで管理しているので共有化がスムーズです。設計業務も、CADや見積ソフトがリモート接続に変わり、自宅でも応答性が向上。デジタルデータを共有サーバーで利用できるようなったので、現場の立ち上げ時も少人数で赴き母店が支援する形が整い、働き方改革にもつながりそうです。一方でデータの保存管理やメールの配信がかなり多く、全てに目を通すのに時間がかかります。

山口 弊社は「守りのデジタル」と「攻めのデジタル」に取り組んでいます。守りはいわゆる業務効率化、働き方改革で、昨年度に全社共通でクラウド型グループウェアサービスや内線モバイルの導入を行い、テレワークやペーパーレス化を推進しています。攻めはビジネス活用で、今年3月にはビジネス向けサービスの会員制サイトをリリースしました。わたしもこの中の、駐車場シェアや飲み放題のサブスクリプションなどをお客様に提案しています。課題は、守りについては利用定着やさらなる業務効率化。攻めについては新サービスの充実。加えて、両方をバランスよく推進していくことです。

『イメージアップと育成を』▶有馬

黒田 BIMについても色々意見が出ました。浸透させていくのはまさに皆さんの世代だと思います。

黒田 ワークライフバランスによる仕事の仕方の変化についてお聞きします。多様なライフスタイルが考えられますが、仕事をするうえで取り組み、対応されていること、課題をお聞かせください。

山口 弊社は年休やフレックス、時差勤務、在宅勤務などが取得しやすい環境が整っています。わたし自身も制度を活用して効率的に業務を行うことで、共働きでの子育てを充実させています。共働きの増加で、フルタイムで働く女性社員が増え、男性社員でも育休を取得している社員が増えています。長時間労働できる人が減っており、その意味でもDXなどを活用した業務効率化、質の高い働き方が求められています。

溝口 自宅でのテレワークを実施しています。コロナ前からテレワーク試行の動きがあり、限定的に参加していましたがあまり普及しませんでした。それがコロナの影響で去年から内勤者に限りテレワークが必須となり、環境が整いました。出退勤管理等、そして会議もほぼリモートになり、わたしは現在週1、2がテレワークです。通勤時間を削れ、保育園の送迎もできて助かっています。課題は内勤者と現場勤務者で不公平感があること。あとやはり出力で図面を見るが多く、ペーパーレス化が進まないことです。

林 わたしの会社でもテレワークが進み、順番に週1、2で実施しています。環境整備も迅速でした。課題は溝口さんと同じく、なかなか紙から抜け出せない仕事の環境。お客様との打ち合わせには必ず紙の提案書を持って行き、その際、出社しないとプリントできません。また、社内の打合わせでもリモートだとうまくいかないこともあり、コミュニケーションの取り方に工夫が必要です。どこでも作業ができる一方、いつまでも仕事ができ、電話・メール対応が続いてしまい、切り替えの難しさも課題です。

岡田 わたしは週のほとんどで在宅によるテレワークを実施しています。出社は月1、2回です。定例会議も



林 未南美



有馬進太郎

『設計業務の自動化に期待』▶岡田

お客様との打ち合わせもアプリ等を利用。通勤時間の短縮でストレスが減り、家族と過ごす、子どもと遊ぶ時間も取れるようになりました。課題は、コロナ後も自由な働き方が社会で更新されていくかと、入社1、2年目の人がほとんど業務経験なしにテレワークをする難しさ。リモート会議では質問もしにくいと思い、できるだけ声を掛けるようにしています。

有馬 弊社は毎週水曜のノー残業デーを始めて2年経ちます。これは単に帰宅を早くするのではなく、1週間の工程を考えて効率化を図り、パフォーマンスを上げるもの。空いた時間で会社の制度を使って資格取得に取り組んでいますが、こういったことから技術の底上げにもつながります。他にも、設備用CADソフトを使うことで図面作成の時間が短縮でき、仕事全体の効率化にもつながっていると思います。建設業にもノー残業デーや週休二日制といったことが定着しつつあります。しかし大企業や一部の企業だけで進み、全体に広がらないとイメージアップになりません。適正な工期確保や適正な価格が品質確保につながり、「見えない利益」になることへの理解を深めるよう、業界一丸で取り組むべきと考えます。

中島 これまで伺った内容について、10年後の展望・希望をお聞かせください。

青木 2030年、SDGsが自然に実現できているのが理想です。カーボンニュートラルについてもZEBが一般仕様になり、各建物が実質エネルギー消費ゼロを実現してほしい。リモートで働く場所を選びやすくなり、時間を有効に使える反面、なかなか顔を合わせられず新人への声かけが難しいという話もありましたが、そういった部分がバーチャルリアリティの発展などで改善できていると嬉しいですね。

有馬 建築業界はまだ未来があると思います。3Kと言われた時代もありましたが、30代の私はそこまでの印象はありません。技術者の人手不足も叫ばれていますが、次世代の育成を少しずつでも業界全体で行うことで解決につながると考えます。また、私も他社の女性監督と一緒に働いていますが女性が活躍できる分野もあり、多様な人材の活用で業界、そして社会の



青木一晃

『BIMで全工程の最適化』▶神谷

成長につながることを期待します。

岡田 ZEBは数値目標があり提案しやすい一方、SDGsは具体的な基準がなく、コンペでもインパクトに欠けます。評価基準があると提案しやすくなるので、社会全体の認識が高まり、その環境ができていくことを望みます。また、ビッグデータを使って設計業務が自動化できる未来に期待します。余裕ができた時間で発注者とのコミュニケーションを増やすこともでき、よりよい建物ができると考えます。

神谷 SDGsの項目が少なくとも半分以上達成してほしい。現状、日本では当たり前のことが世界的にはそうではなく、途上国の半数以上の方は普通に生活ができる状態ではありません。明日どう生きようといった不安のない時代になってほしいと思います。また、業界では関係者がBIMを使いこなし、その本来の目的である属性情報、位置・部材の仕様・性能・コスト等の有効活用とIoTやAIとの連携による設計、施工、運用・維持管理のシステム全体の最適化が確立していることを期待します。

河田 カーボンニュートラルに関し、コストの課題が改善され、インシヤルコストだけではなくランニングコストも見て、総合的にライフサイクルコストで評価される世の中になっていることを希望します。電力会社としても、ランニングコストの数値化のようなサービスがあったらいいのかもしれない。

林 10年後は設計業務のリモートがもっと進化し、本当にどこでも、海外でも仕事ができるようになっていればいいですね。遠くの建築物を見に行くなどは現状簡単ではありませんが、仕事をしながらそんなことも普通にできるようになればと思います。

溝口 SDGsを絡めた提案等がもっと活発になり、実感できる社会になってほしい。また、テレワークに限らず柔軟な働き方が一層進み、みんなが働きやすい環境になっていることに期待します。サブコン、総合職の技術系は女性が少ないものの近年はコンスタントに入ってくるようになり、なかには施工管理を続けたい人もいます。そういう人も、柔軟に働けることで仕事が続けられる未来を望みます。



岡田陽介



溝口薫子

『我々が脱炭素のキーマンに』▶山口

山口 法人および個人の投資が進み、環境省が掲げる目標、CO₂排出量の2030年度までに2013年度比46%削減を達成し、2050年の脱炭素達成も軌道に乗っている状況を期待します。また、技術開発が進み、脱炭素に密接に関係する我々エネルギー会社や建築業界が脱炭素社会実現のキーマンになっていくことを期待しています。デジタル技術を用いた業務効率化や働き方改革については、日々進化するシステムや技術を積極的に導入することで、質の高い成果と付加価値を創出できるよう頑張りたいと思います。

村上 貴重なご意見をありがとうございました。本日も語っていただいた10年後に、またこのメンバーで座談会ができたらいいですね。皆さんのそれぞれの分野でのご活躍を期待しております。

関林 今回お話し頂いたテーマは年々身近になり、更に新型コロナ禍の今、一層大きな時代の動きを感じます。この変化に対し若い技術者の皆様には柔軟に対応して頂き、今後とも建築設備の発展にご貢献いただけることをお願い致します。



WEB会場は、一般社団法人愛知県設備設計監理協会の事務局をお借りしました。

中部支部設備女子会活動内容

～発足から現在…そして未来へ～

～はじまり～

中部支部設備女子会の発足は、業界人らしく『建設的』な議論から始まった。当時、設立メンバー(のちの運営委員会メンバー女性3名、男性2名)で決めた運営方針を記しておく。

- ★男性も参加OK!(女性に限らないこと。男性が参加をためらわない事業内容にすること)
- ★誰でも参加OK!(学生、社会人問わないこと。建築設備(建設業)に興味がある方なら誰しもが参加できること)
- ★参加費は無料!(建築設備技術者の資質及び社会的地位の向上の主旨に加え、業界の広報活動をも目的としているので、申込みや参加が容易であること)
- ★新聞記事掲載と報告書のHP掲載は必ず!(参加者が研修として会社の承認を得られ、参加後は上司に事後報告が出来る土台づくりをすること)
- ★後援を得られる事業内容で実施!(建築設備六団体協議会中部支部設備女子支援ネットワークの各団体に後援を得て、中部支部設備女子会の認知度を高めるよう努めること)

中でも、『男性がいる女子会』と『誰でも(技術職以外でも)』という2点には特にこだわった。これからの時代は女性に選ばれない職業・職場は廃れ、女性をうまく活用できない産業は落ち目となるという建設業界の危機意識、女性が少ない職場環境ならではの不自由さがあると感じている男性の存在、女性が働きやすい職場は男性にも働きやすい職場となり、男女ともに協力し合える持続可能な社会づくりの実現につながるであろうという視点。そして、立場ある男性が、職種が全く違う他社の事務・総務・営業等で働く女性や学生の生の声が聞ける場に気軽に参加し、その経験が女性への理解と具体的な支援方法のきっかけとなれば、業界各社内の職場環境改善に役立つと考えた。



これまでの活動

2016年

- 3月 (一社)建築設備技術者協会 中部支部設備女子会(仮) 発足準備ミーティング開催 [参加者9名]
- 5月 第1回 中部支部設備女子会(仮) 交流会 開催 [参加者12名]
- 6月 (一社)建築設備技術者協会中部支部27期通常総会第5号議案にて 中部支部設備女子会 設立 全会一致にて承認
- 11月 第1回 見学会『大名古屋ビルヂング バックヤード』[参加者50名] & 第2回 交流会 [参加者33名]

2017年

- 1月 某現場見学会 [コアメンバー10名参加] & 第3回 交流会 [参加者10名]
- 2月 建築学会東海支部女性会員の会交流会参加 [運営委員2名参加] 建築学会東海支部研究集会シンポジウム参加 [参加者13名、講演 運営委員1名]
- 5月 第2回 見学会『Bizプラザ名古屋』[参加者28名] & 第4回 交流会 [参加者30名]
- 10月 第3回 見学会『JRゲートタワー バックヤード』[参加者30名] & 第5回 交流会 [参加者25名]
- 11月 国土交通省主催『建設産業女性活躍セミナー』名古屋会場参加 [参加者10名、パネリスト運営委員1名]

～歴代運営委員～ (歴代順 ○現在の運営委員)

○藤原(井内)永知子(藤原工業(株))、○大山智子(大成建設(株))、池浦まり(株大林組)、伊藤剛(株大林組)、村田義郎(大成建設(株))、岸野豊(大成建設(株))、○近藤由美(株大林組)、村上加代子(株MURA 設備設計事務所)、榎本賢(株大林組)、○鈴木法子(日比谷総合設備(株))、○岡部裕之(大成建設(株))、○木村員久(株大林組)

～記事掲載紙～ 中日新聞、建設工業新聞、建設通信新聞、建通新聞、中部経済新聞

～協力団体～

(公社)空気調和・衛生工学会中部支部 (一社)電気設備学会中部支部 (一社)日本電設工業協会東海支部 (一社)日本空調衛生工事業協会東海支部 (一社)日本設備設計事務所協会連合会東海ブロック協議会 (一社)日本建築学会東海支部女性会員の会

～そして未来へ～

中部支部設備女子会の発足からすべての事業において、馬瀬前支部長と村上支部長を始め多くの理事の皆様が継続したサポートをいただいていた。設立当初は「男性理事が女子会に参加?」と違和感を何度も問われたが、今では複数の男性理事が『女子会サブ運営委員』として、交代で事業の受付や会場案内、見学会引率に積極的に関わってくれている。無名の中部支部設備女子会が『大名古屋ビルヂング』・『JR ゲートタワー』のバックヤード見学会他大型事業を継続して開催でき、それが実績となってきていること。それは、事業開催に向け、忙しい日々の仕事に追われる中、自身のメリットにもお金にもならないが、中部地域における業界で働く女性の集まりに対して社会的意義を理解し、育ててやろうと時間を費やし、ひと肌脱いでいただいた皆様のご尽力の賜物である。加えて、事業の受入先担当者、全国から集まってきた多数の参加者、新聞各紙の記者、協力団体の方には、皆様それぞれがそれぞれの役割で、女子会にたくさんの点々を打ってきてもらったと感じている。設立5年が経ち、点が集まり実線になってきている。これからも、皆様一人ひとりのちょっとした力と時間をお貸しいただき、全員で点々を打ち続け、未来につながる線を太く長くしていきたい。今後も、冒頭の5つの運営方針に主眼を置き、事業開催を継続することで、「建築設備業界で働く技術者・技能者の横のつながりと親睦」、「働きつづけられる魅力的な職場の実現」、「建設業で生き生きと活躍する姿を広く社会に発信」、「建築設備業界のイメージアップ」が少しずつ進み、みんなで根気よく点々を打ち続けたら、きっと“建設業全体の活性化・社会的評価の向上”につながる未来への補助線となるであろう。

2018年

- 5月 第4回 見学会『INAXライブミュージアム、LIXIL 榎戸工場』[参加者35名] & 第6回 交流会 [参加者35名]
- 7月 日本仕上学会女性ネットワークの会講演会・交流会参加 [参加者12名、パネリスト運営委員1名]
- 10月 第5回 見学会『三菱電機名古屋製作所e-Factory モデル工場』[参加者25名] & 第7回 交流会 [参加者23名]

2019年

- 5月 第6回 第一部講演会『大同大学・生活環境のにおいかおり』[参加者39名] 第二部 講座『建築学生のためのキャリアデザイン講座』[参加者49名] & 第8回 交流会 [参加者49名]
- 10月 第7回見学会『みなとアクルスエネルギーセンター』[参加者34名] & 第9回 交流会 [参加者25名]

2020年

- 事業を開催予定していたが、新型コロナウイルス感染拡大のため延期または中止
- 5月 第8回 見学会『パナソニックエコシステムズ工場』(延期) & 第10回 交流会(延期)
- 10月 第9回 座談会『設備女子のための座談会』(中止) & 第11回 交流会(中止)